

沿革

当院は、39診療科を標榜している高度総合医療施設として、既に約半世紀にわたって京都伏見の地で医療活動を行っている。

国から内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）、成育医療の基幹医療施設、がん・循環器・感覚器・腎疾患の専門医療施設に指定されており、エイズ診療、国際医療協力の機能も付与されている。また京都府から三次救急医療施設の指定を受けている6施設のうちの一つであり、更に平成19年1月には地域がん診療連携拠点病院に指定された。

高度先進医療を実施していくとともに、その基礎となる臨床研究の実施、質の高い医療を提供できる医療従事者の育成、与えられた政策医療分野に関する情報の発信など当院に与えられた使命を引き続き果たしていき、また今後、地域の診療所・病院との連携を強化し、地域医療の発展に貢献していくため地域医療連携室の充実を図る。

明治41年11月	京都衛病衛戎病院として設立
昭和20年12月	国立京都病院として厚生省に移管
昭和34年12月	昭和28年12月に基幹病院整備に着工 外来診療棟、中央治療棟、管理棟、病棟を竣工
昭和53年4月	臨床研究部設置
昭和59年12月	救命救急センター設置
平成2年3月	昭和56年3月老朽基幹病院更新築工事に着工 外来管理診療棟、中央診療棟、病棟を竣工
平成7年7月	京都府エイズ治療拠点病院
平成10年10月	完全院外処方箋発行実施
平成11年3月	病院情報システム稼働開始
平成15年10月	臨床研修センター設置
平成16年3月	電子カルテシステム稼働開始
平成16年4月	独立行政法人へ移行 独立行政法人国立病院機構京都医療センターへ名称を変更
平成17年4月	(財)日本医療機能評価機構のVer.4.0認定
平成19年1月	地域がん診療連携拠点病院に指定
平成20年8月	地域医療支援病院 承認
平成22年3月	(財)日本医療機能評価機構のVer.6.0認定
平成23年1月	新中央診療棟を竣工 緩和ケア病棟設置